

# 筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析

— K200～700 & J961-963 「漢字」の場合 —

魏 娜 加納 千恵子

## 要 旨

本稿は筑波大学留学生センターにおいて2010年度3学期に実施されたニーズ調査の中から、「漢字」の学習に関する質問項目の結果について報告する。調査は、初級レベル（J100～400）と中上級レベル（J500～900）の受講生389名を対象に行われた。その中で漢字を勉強する学習動機および漢字学習の困難点についての質問項目に対する回答を分析した結果、学習動機としては、①日常生活場面よりは学習・研究場面において、②4技能の中では読解力を伸ばしたい、という回答が多かった。また、漢字学習の困難点としては、学習者が漢字圏か非漢字圏かによって異なる傾向が見られたが、全体としては漢字の「読み方」が難しいということが明らかになった。

【キーワード】 ニーズ調査 漢字学習 学習動機 初級レベル 中上級レベル  
困難点 読み方

## A Learner Needs Analysis for the Intermediate and Advanced “Kanji” Classes (K200-700 & J961-963) at International Student Center of the University of Tsukuba

WEI Na, KANO Chieko

【Abstract】 This paper reports on the results of a survey of learning motivations and difficulties for learners of Japanese concerning “kanji”. From the result, the following points became clear ; when students learn kanji, (1) academic motivations are stronger than motivations for everyday life, (2) motivations for reading Japanese are strongest among the four skills. Some differences are observed between the students with non-kanji background and the students with kanji background, but generally speaking, reading of kanji is the main difficulties for learning kanji.

【Keywords】 needs analysis, learning kanji, motivations, beginners’ level,  
intermediate-advanced level, difficulties, reading of kanji

## 1. はじめに

筑波大学留学生センターにおいて2010年度3学期の日本語補講コースが始まる前に行われたプレースメントテストの際に、日本語学習に関するニーズ調査を行った。調査は、初級レベル（J100～400）と中上級レベル（J500～900）の受講生389名を対象に行われた。ニーズ調査の概要については、本誌所収の関崎（2012）を参照されたい。本稿では、漢字学習に関する以下の2つの質問項目の結果について分析・考察を行う。

質問1：あなたは、どのような場面で、何をするために「漢字」を学習する必要がありますか。

質問2：質問1で答えたような場面で、「漢字」を読んだり書いたりする時に難しいと思うことは何ですか。

学習者の自由記述による回答から、使用頻度の高い語彙やフレーズをキーワードとして抽出し、上位カテゴリーと下位カテゴリーに分けて使用頻度を調べた。質問1の学習動機に関しては、「使用場面」「強化したい能力」「その他」に分けて結果を考察した（4.1節参照）。質問2の困難点に関しては、「読み方」「覚えること」「書き方」「意味」「使い方」「語彙」「母語との対照（主に漢字圏）」、「その他」に分けて考察した（4.2節参照）。

## 2. アンケート回答者の属性

ニーズ調査の調査紙にあるアンケート回答者の属性に関する項目は、全5項目（レベル、国籍、身分、所属、日本滞在歴）であった。初、中、上級の補講受講者389名の属性別（日本語レベル、漢字レベル、言語文化圏、身分、所属）の集計結果を以下の図1～図5に示す。

図1は回答者の割合を日本語レベルで大きく分けた結果であり、J100-200が初級前期、J300-400が初級後期、J500-600が中級前期、J700-800が中級後期、J900が上級である。それぞれのレベルの回答者の割合は、初級が全体の40%（前期16%、後期24%）を占め、中級が全体の47%（前期31%、後期16%）で、上級が6%であった。最も多かったのは中級レベルであるが、レベルが空欄になっていた回答者が7%いた。

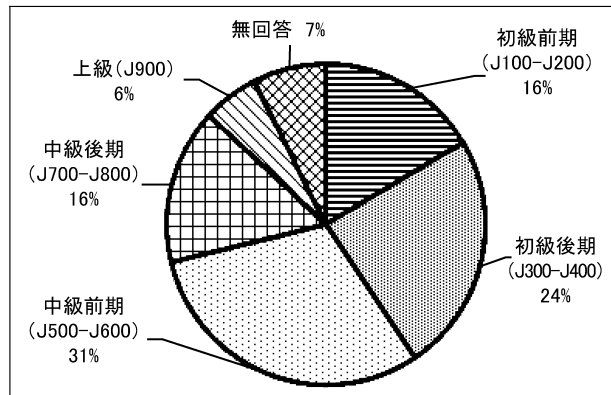


図1：日本語レベル（Jレベル）別回答者数

図2は回答者を漢字のレベルで分けた割合である。2010年度の漢字クラスは、K200からK700までの6レベルであり、J963というのは、J900レベルで各学期に開講されている上級漢字語彙クラス（J961, J962, J963）の1つで、3学期はJ963が開講されていた。漢字については、初級前期の者が11%（K200が4%、K300が7%）、初級後期が20%（K400が11%、K500が9%）であるのに対して、中級レベルが32%（K600が15%、K700が17%）と最も多く、上級レベル（J963）は3%しかない。しかし、本調査ではレベルが空欄になっていた回答者が34%もいたため、漢字のレベル別回答については十分に分析できないと思われる。

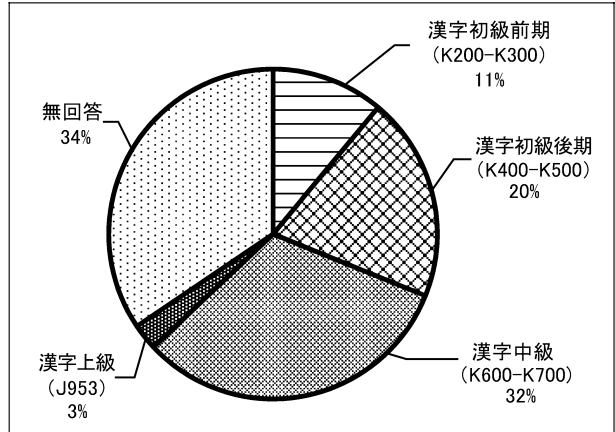


図2：漢字レベル（Kレベル）別回答者数

図3は回答者を漢字圏、韓国、非漢字圏に分けた結果である。漢字学習に関する質問項目の分析・考察のためには、細かい国籍の違いは意味がないと思われたため、言語文化圏による分け方にした。韓国はかつては漢字圏であったが、現在はハングルのみを使っているため、別のカテゴリーにした。「漢字圏」は中国、台湾、香港、マカオの回答者を含み、非漢字圏は、アメリカ、イラン、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、エジプト、エストニア、オランダ、カザフスタン、カンボジア、ギリシャ、キルギス、スペイン、スリランカ、セルビア、タイ、タジキスタン、チュニジア、ドイツ、トルクメニスタン、パキスタン、フィジー、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ペルー、マレーシア、モロッコ、モンゴル、ラオス、リトアニア、ルーマニア、ロシアとなっている。図3を見るとわかるように、中国、台湾などの漢字圏の回答者が最も多く、全体の55%を占めており、韓国が10%、非漢字圏が22%という割合であった。無回答の回答者が13%いた。

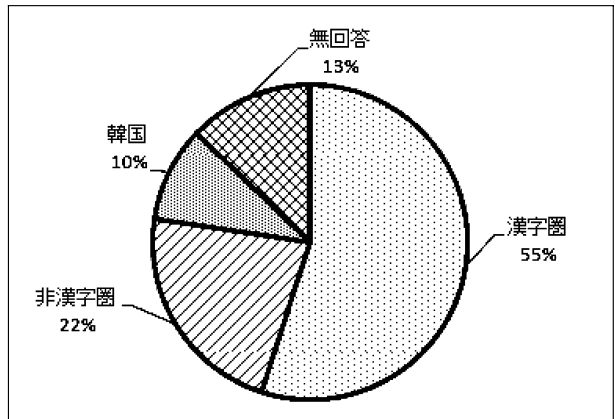


図3：言語文化圏別回答者数

図4は回答者の割合を身分別に見た結果である。初、中、上級の389名の補講受講者の身分を「大学院生」、「学類生」、「研究生」、「短期生」、「その他」の5種類に区分した。「大学院生」は本学の大学院（修士課程・博士課程）に在籍している正規学生のことを指し、「学類生」は本学の学士課程を履修している正規学生のことを指す。「研究生」とは、学位取得を目指さず、研究のために本学に在籍している学生、および本学への正式入学を目指して勉学している非正規生のことである。「短期生」とは、特別聴講生、科目履修生などの短期交換留学生のことである。「その他」には、教員研修生、日本語日本文化研修生、日韓共同理工系国費留学生などが含まれている。図4からわかるように、研究生の数が最も多く、全受講生の約半分（49%）を占めている。次に大学院生が24%、短期生が15%と続く。学類生とその他の割合はそれぞれ5%と1%と低く、筑波大学留学生センターの日本語コースの特徴となっている。空欄、つまり身分不明の回答者が6%あった。

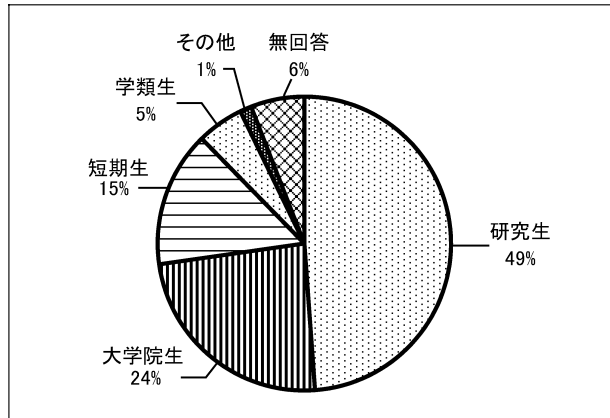


図4：身分別回答数

最後に、図5は回答者を所属別に見た結果である。人文社会が最も多く28%で、次にシステム情報の15%、生命環境の13%、人間総合の12%と続く。他は、数理物質の5%、その他2%と非常に少ない割合となっている。ここでも、空欄になっている回答者が25%、つまり全体の四分の1もいたことがわかる。

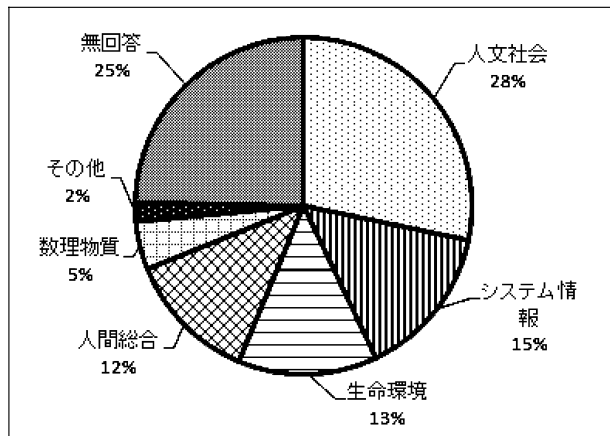


図5：所属別回答数

### 3. 回答結果の分析方法

本稿では、漢字の学習動機に関する質問項目と、漢字学習の困難点に関する質問項目に対する回答結果を分析するにあたり、回答に出てくる頻度の高い語彙やフレーズをキーワードとして抽出して、カテゴリー化を行った。

質問1の学習動機については、大きく「漢字を使用する場面」と「漢字の学習で強化したい能力」とに分けることができる。たとえば、質問1の学習動機に関して以下のように記述した回答者がいた。

回答例：→大量の研究資料を書いたり、読んだりしなければならない。その中に漢字が非常に多い。

この回答者の場合、使用場面は「日常生活」の場面ではなく、「研究」の場面であり、身につけたい能力は「書く」と「読む」であると判断した。

その他の多くの回答を分析した結果、「漢字を使用する場面」としては、「日常生活」「研究・学習生活」「楽しみ・娯楽」という3つの下位カテゴリーが認められた。また、「漢字の学習で強化したい能力」としては、大きく「漢字力」と「日本語能力」に分けられ、さらに「漢字力」については「読み方」、「語彙量」、「意味」、「書き方」、「使い方」、「覚えること」、「その他」に、「日本語能力」については「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」、「その他」に分けられた。主なカテゴリーに当てはまらない記述内容についてもキーワードを抽出して、「その他」としてまとめた。

その結果、質問1の回答を分析・考察するためのカテゴリーは表1のようになった。

表1：質問1の回答分析のためのカテゴリー（数字は回答数）

質問1 学習動機																														
漢字を使用する場面						漢字の学習で強化したい能力																								
日常生活			研究・学習生活			楽しみ・娯楽		漢字力			日本語能力		その他																	
新聞	コミュニケーション	看板・お知らせ	メール・手紙	地名・人名	メニュー・商品説明	ニュース・テレビ	その他	読むこと	書くこと	試験・進学	発表・議論	その他	ネットなど	小説・雑誌	読み方	語彙量	意味	書き方	使い方	覚えること	その他	読む	書く	話す	聞く	その他	母語と対照する	漢字に興味がある	日本文化を理解する	日本で働く

日常生活においては、新聞、看板、お知らせ、メール、手紙などで漢字を使用するという他に、「普通にコミュニケーションするとき」や「会話をするため」などの記述も見られた。研究・学習生活の場面において、「読むこと」とは、研究資料、論文や本などを読むことであり、「書くこと」とは作文、レポート、論文などを作成することである。また、「漢字の学習で強化したい能力」というカテゴリーについて、「漢字力」と「日本語能力」における「その他」はそれぞれ漢字力一般と日本語能力一般を示す。

質問2の漢字学習の困難点についても、上記と同じような作業を行い、「読み方」「覚えること」「書き方(字形)」「意味」「使い方」「語彙」「母語との対照」「その他」というカテゴリーを設定した。具体的に、記述の多かったキーワードとともに表2にまとめる。

表2：質問2の回答分析のためのカテゴリー（数字は回答数）

質問2 困難点																			
読み方		覚えること	書き方(字形)	意味	使い方	語彙	母語との対照		その他										
読み方一般	読み方が多い・不規則	訓読み	音読み	音・訓の区別	特別な読み方	字音・字形・意味	複雑な字形	意味	用法・語彙の活用形	同形・類形語	同音語	書き方のずれ	意味のずれ	読み方のずれ	和製語	特殊な字と語	リスニング	知らない漢字の数が多	片仮名・平仮名

#### 4. 各質問項目の回答結果と分析

##### 4.1 学習動機

##### 4.1.1 学習動機の分析

カテゴリー別から見た質問1の回答結果は以下の表3のように示される。数字は回答数を表すが、複数回答が可能のため、合計数(389)とは一致していない。

表3：質問1のカテゴリー別に見た結果

		質問1 学習動機																													
		漢字を使用する場面									漢字の学習で強化したい能力																				
上位カテゴリー		日常生活			研究・学習生活			楽しみ・ 娯楽	漢字力					日本語能力				その他													
下位カテゴリー		新聞	コミュニケーション	看板・お知らせ	メール・手紙	地名・人名	ニュース・テレビ	メニュー・商品説明	その他	読むこと	書くこと	試験・進学	発表・議論	その他	小説・雑誌・ ネットなど	読み方	語彙量	意味	書き方	使い方	覚えること	その他	読む	書く	話す	聞く	その他	母語と対照する	漢字に興味がある	日本文化を理解する	
合計389人		20	10	7	7	6	5	3	8	85	50	13	6	16	7	61	24	29	22	6	5	14	106	52	18	2	30	16	4	3	2
		66							170					7	155					208				25							

まず、表3の「合計」欄が示すように、学習者の学習動機を尋ねる質問（質問1）に対する回答において、「漢字を使用する場面」の中では、「研究・学習生活」（170）が「日常生活」（66）に比べかなり高い数値を示した。このことから、筑波大学留学生センターで学習している留学生にとっては、日常生活で漢字を使用することより、やはり研究および専門にかかわる学習・研究場面で活用するために漢字を勉強したいという学習者の意識が強いといえるのではないだろうか。すなわち、漢字に対する受講者のアカデミック系の学習動機が著しく見られると言えよう。このような結果から、日常生活に必要な日本語だけでなく、学習者のニーズに合わせて、漢字教育の重点をアカデミックな内容に置く必要があるのではないと思われる。

次に、表3では、「漢字の学習で強化したい能力」というカテゴリーの回答において、「日本語能力」（208）が「漢字力」（150）を上回っていることがわかった。このことから、漢字そのものより、受講者は漢字を基盤とする総合的な日本語能力の上達を目指していると考えられる。特に、読む力を強化したいという学習者の意識に注目すべきであろう。

また、「漢字能力」の下位カテゴリーの集計結果を示す図6から分かるように、上位カテゴリー「漢字能力」の中でも、漢字の読み方が最も重視されており（回答数61）、漢字語彙をスムーズに読めるようになりたいという意見が多かった。一方で、質問2の漢字学習の困難点においても、漢字の「読み方」が最も難しいものとされていたことは特筆するべきであろう。

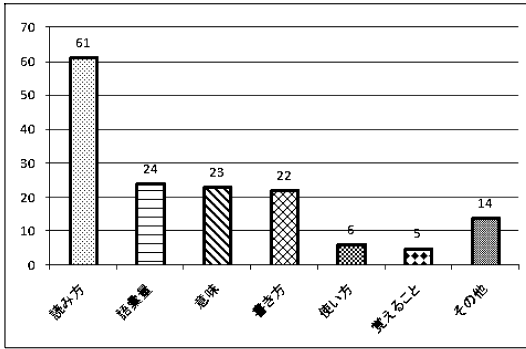


図6：「漢字能力」の下位カテゴリー

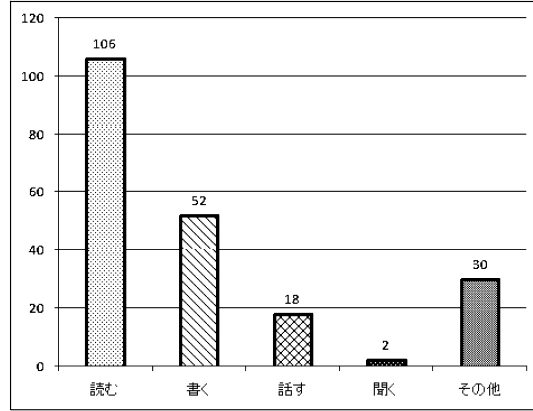


図7：「日本語能力」の下位カテゴリー

もう一つの上位カテゴリー「日本語能力」の中では、漢字で読む力を伸ばすという「読む」の回答数(106)が最も多く、その次に来るのは「書く」(52)である。これについて、孟・小野(2012)は、文章の意味を理解する際の最も大きな妨げは「語彙」であると指摘し、「学習者は読む練習をする際、文法をそれほど意識しておらず語彙の意味や読み方を意識している」と述べている。また、劉・木戸(2012)でも、書く練習において、「語彙量が不足している、語彙の用法、書き方および読み方が難しい」という語彙の問題が挙げられている。

それに対して、漢字の学習によって、話す、聞く力を上げたいという数は少なかった(図7)。しかしながら、「聞く」練習における受講者のニーズ調査を分析した結果、申・酒井(2012)は、聞く活動の困難をもたらす最も大きな原因として語彙の問題があると述べている。

最後に、表3における「その他」というカテゴリーについて、その下位カテゴリーを図8のように示すと、「母語と対照する」という回答が他の項目より数が多く、16に達していることがわかった。さらに、そう答えた受講者は漢字圏が15人に上るのに対して、韓国人はわずか1人にすぎず、非漢字圏学習者は0人であった。この結果から、漢字圏の学習者は母語からの影響を受けており、それを意識しつつ日本語を勉強していると言えるだろう。

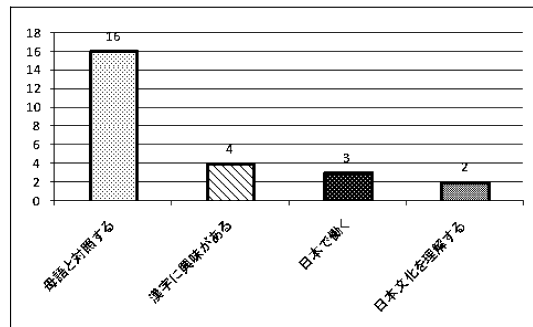


図8：「その他」の下位カテゴリー



#### 4.1.2 質問1のまとめ

以上をまとめると、今回の調査では、カテゴリー「日常生活」への回答が比較的少なかったのに対して、「研究・学習生活」への回答が数多く見られ、受講者の「漢字」の学習動機はアカデミックな要素と強く関わっていると考えられる。

また、前述のように、漢字そのものの知識より、漢字を基盤とする総合的な日本語能力を伸ばすという受講者の希望が強く見られ、特に読む能力が重視されていることが分かった。一方、「漢字力」においても、漢字の読みを強化したいという受講者のニーズも見られた。

さらに、漢字圏の学習者は母語の影響を意識しつつ、日本語の漢字語彙を学習していると思われる。

#### 4.2 漢字学習の困難点

##### 4.2.1 学習難易度の分析

質問2「漢字学習の困難点」についてのニーズ調査の集計結果は表4の通りである。回答数は数字で示されている。

表4：質問2のカテゴリー別に見た結果

		質問2 困難点																		
上位カテゴリー	読み方					覚えること	書き方(字形)	意味	使い方	語彙		母語との対照		その他						
下位カテゴリー	読み方一般	読み方が多い・不規則	訓読み	音読み	音・訓の区別	特別な読み方	字音・字形・意味	複雑な字形	意味	用法・語彙の活用形	同形・類形語	同音語	書き方のずれ	意味のずれ	読み方のずれ	和製語	特殊な字と語	リスニング	知らない漢字の数が多い	片仮名・平仮名
合計389人	51	39	20	8	8	6	44	39	26	24	3	2	15	11	4	2	14	7	6	2
	132					44	39	26	24	5	32		29							

表4によると、「漢字を書いたり読んだりする時に難しいと思うことは何ですか」という漢字学習上の困難点に関わる質問2に対する答えとして、最も多かった回答は「読み方」(132)であり、その次は「覚えること」(44)で、以下、「書き方」(39)、「母語との対照」(32)、「意味」(26)、「使い方」(24)の順になっている。そのほか、「語彙」という回答数はわずか5であり、「その他」の回答数が29であることが分かった。

各カテゴリーを詳しく見ると、まず最も難しいと思われる「読み方」については、図9で示すように、「読み方一般」への回答数が最も多く、51回に上っている。その次に来るのは「読み方が多い・不規則」(39)、「訓読み」(20)である。したがって、日本語の漢字は読み方が多く、一字多音や同音異義・異形の語が多い、さらに音・訓読みが混じっているため、適用できるルールがなく、学習が困難であると考えられる。

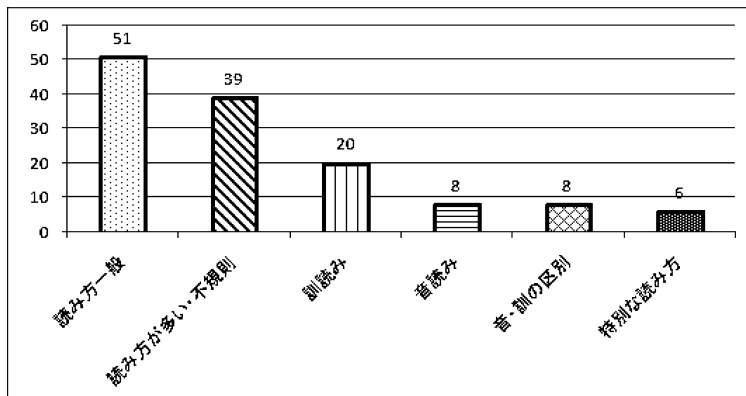


図9 「読み方」の下位カテゴリー

次に、困難度が高い項目の2位を占めている「覚えること」(44)というカテゴリーについては、以下のような回答例が見られる。

- 例①中国人にとって漢字を書くのはそれほど難しくない。問題になるのは発音がわからないことである。多くの単語の訓読みを覚えられない。(Ca-2：翻訳)
- 例②読むには特に問題がなかったが、書くには仲々覚えことができなく特くに漢字語彙があまりできない。(Ja-47：オリジナル)
- 例③漢字の画数が多くなり、複雑になるにつれ覚えにくい。(Kb-4：翻訳)
- 例④漢字は勉強しやすいが、覚えるのがとても難しい。たくさんの努力と普段の練習は必要である。(Eb-1：翻訳)

以上の回答例によると、漢字の読み方を覚えること、書き方を覚えることが困難であることがわかった。このような回答をさらに詳しく分析した結果、読み方を覚えるのが難しいという回答が20、書き方が覚えられないという回答が10、意味を覚えにくいという回答

がわずか3であった。このことから、やはり前述のように、読み方の学習が最も困難であり、複雑な漢字の読みが覚えにくいことが明らかになった。また、言語文化圏の観点から分析した結果、やはり漢字圏は読みが覚えられず、非漢字圏は読みも書きも両方とも覚えにくいということが分かった。

第三に、「書き方（字形）」というカテゴリについては、困難であると答えた回答者(39)の中に、漢字圏学習者が5人、韓国人学習者が9人いた。それに対して、非漢字圏学習者は17人に達していることが分かった。このように、やはり非漢字圏の学習者にとっては、漢字の字形の学習が困難であることがわかった。それに対して、漢字圏学習者にとっては、ほとんどの漢字が正確に書けるが、母語と形態的な類似性の高い日本語の漢字を書く際に、間違いの出る可能性もあると考えられる。このことは、母語との対照について、最も回答が多かったのが、図10のように、書き方のずれであったことから分かる。

最後に、「母語との対照」というカテゴリにおいては、言語文化圏による差も見られた。それを図11で示す。

図11によると、「母語との対照」というカテゴリに当てはまる回答数において、漢字圏(28)は、他の韓国(3)、非漢字圏(0)、無回答(1)を大幅に上回っていることが分かった。

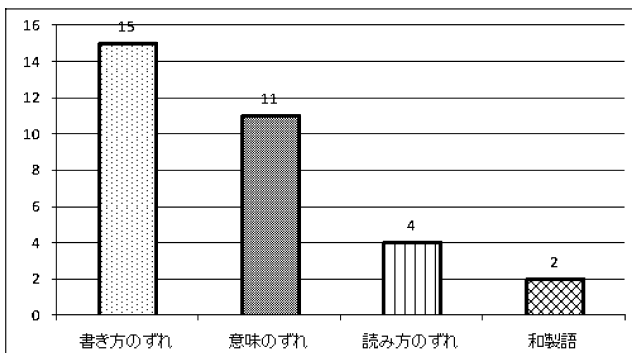


図10：「母語との対照」の下位カテゴリ

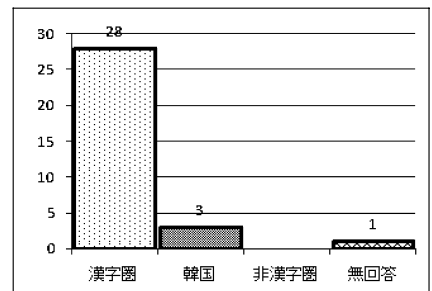


図11：「母語との対照」における言語文化圏による差

#### 4.2.2 学習困難点のまとめ

このように、漢字学習においては、「読み方」の学習が最も困難であることがわかった。非漢字圏にとっては、読み方と同時に字形も覚えることができないという学習者の悩みが見られた。したがって、音・訓読みの混乱をできるだけ軽減するために、学習者の日本語レベルに応じて、音読みと訓読みを教える順序や教える内容の割合などもさらに工夫する必要があると思われる。

また、書き方の学習と記憶することが困難であると答えた非漢字圏学習者が多いという

ことから、今後の漢字教育においては、非漢字圏学習者にとって有効な記憶法、あるいは記憶ストラテジーの導入が望まれているといえるだろう。

一方、今回の調査結果から、漢字圏学習者にとっては、日本語の漢字が中国語と形、音、意味の似ている漢字の場合、その漢字の意味の学習はそれほど難しくないことが確認された。したがって、最も難しいと回答されている漢字の「読み方」をどのように指導していくかが今後の漢字圏学習者に対する漢字教育の課題であろう。

## 5. おわりに

本稿では、「漢字」を学習する場合の学習者の学習動機や学習上の困難点を明らかにすることにより、学習者の到達目標を設定するための材料を収集することができたと思われる。現在の留学生センターにおける漢字クラスは、「読む」や「書く」などの他の技能クラスとは別のシラバスに基づいて授業が行われているが、今回の調査により明らかになった各技能の学習ニーズを視野に入れて、今後の漢字教育のあり方についてさらに考えていく必要があるのではないだろうか。

本研究は、平成22年度筑波大学「革新的な教育プロジェクト支援経費」からの助成を受けた。

## 注

1. 2011年度からは漢字クラスのレベルが増え、K200からK800までの7レベルとJ900レベルで開講されている上級漢字語彙クラス（J961, J962, J963）になった。100レベルでは平仮名、カタカナの学習に力を入れるため、漢字のクラスはない。

## 参考文献

- 関崎博紀 (2012) 「筑波大学留学生センター日本語補講コースにおける学習者のニーズ調査の概要」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』 27号：271-276
- 申貞恩・酒井たか子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析—J500-900「聞く」の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』 27号：289-298
- 孟熙・小野正樹 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析—J500-900「読む」の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』 27号：299-317
- 劉雅静・木戸光子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析—J500-900「書く」の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論文集』 27号：319-332